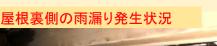
## 屋根は外側の調査だけでは本当の被害状況は掴めません! 築24年で発生した屋根の雨漏り事例です(お手入れ実績無し)。

24年間雨風汚染を受け続けた屋根です!















最低でもこの程度の点検調査及び状況報告はしてもらいましょう!

こちらの施工は当社がご縁を頂きましたが、相見積もり業者は当社以外に4社だったようです。

1社目 屋根カバー工法(既存木下地と屋根材を撤去せず上から葺き増す方法)を提案 屋根裏調査あり

2社目 屋根カバー工法(同上)を提案 外観調査のみ ~

3社目 屋根塗装を提案 外観調査のみ

4社目 提案をなかなかしてこない状況 外観調査のみ

カバー工法は屋根の木下地の強度が維持 できている事が大前提となります。

当 社 屋根葺き替え(垂木・野地板・断熱材取替え含む 腐食状況により白カビ部補強)を提案 屋根裏調査あり 屋根裏の調査を実施したのは当社以外に1社目の業者だけでした。

しかし、この雨漏りの被害状況を目で確認したにもかかわらず、1社目の業者はカバー工法の提案だったようです。お客 様も写真のように雨漏り被害を受けている既存下地材をそのまま使用する工法に抵抗感と疑問を感じたそうです。 これだけ水浸しの木下地や断熱材とこれからも一緒に生活していくと思うとゾッとしますね。臭い物に蓋をするようで気持 ちが悪いと思います。実際に生活していくお客様のお気持ちをしっかりと汲み取ってご提案しなけれはいけません。 私も含めてですが、各業者や実際に調査や提案を担当する者は、もっともっと勉強をしなければいけないですね。 外観をササっとしか見ない業者がほとんどのようです。必ず外部も内部も細かくしっかり調査しもらいましょう!

## 屋根材を安易に塗装工事と判断するのは危険です! 屋根の異常な劣化が多発!皆様も屋根のお手入れは調査し慎重に!

[事例A:特に問題視されている屋根材、築16年の建物です]



屋根材(スレート)本体が、ミルフィーユの様に層になって剥がれ崩れていく症状です。

[事例B:屋根材の崩れ及び空洞化が多い屋根材、**築14年**の建物です]





注)屋根が割れるどのような被害に発展していってしまうのか?お教えします!

屋根材(スレート)本体が、内部から崩れ落ち空洞化していく症状です。

現在は、建材全般の劣化状況や法改正の関係性等さまざまな視点から建物の お手入れを考えていかなければいけない時代になってきました。 到底、塗装の経験と知識だけでは、建物のお手入れに対応出来ません。 当社は『塗装専門店』ではありません。『建物のお手入れ専門店』です。

皆様のご自宅の 屋根に、このよう な症状がありませ んか?

これらの屋根を実 際に塗装してし まった建物を多数 見受けられます。

その原因は、施工 業者の調査不足 と知識不足だと思 われます。

塗装のリスク面を 事前に提案しても らえたのか疑問で

これからお手入れ をお考えの方は しつかり調査を行 い、しっかりとした 情報と選択肢を 提案してもらう事 です。

※危険ですので 皆様は絶対に屋 根には上らないで 下さい。

このような屋根材 は、塗装しても長 く持ちません! 密着不良を起こ してしまいます。

塗料メーカーも、塗膜の密 着は、屋根材自体が安定し ている事が大前提としてい ます。